

「新型コロナウイルス感染症を甲府市民とともに乗り越えていく決意宣言」に関する決議

平成から令和へと新しい時代の幕開けと時を同じくして、我がふるさと甲府市は開府500年を市民あげて歓迎し、次の500年に向けて誇り高く晴れのスタートを切った。

しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大とともに、国においては、ウイルスを媒介する人の移動を極力抑制するよう求め、併せて、徹底した「3密回避」を呼びかけ、緊急事態宣言で感染防止に向けた一層の協力を要請してきた。政府による協力の要請にも関わらず、感染がほぼ全国に及び、また急激に重症化して生命に危機的状況が及ぶ事例が伝えられると、有効な治療方法が未だ確立されていないこととあいまって、国民の間に一気に不安が増幅され、未知のウイルスに対する恐怖感が日に日に高まってきた。先が見えない状況に疲労は蓄積され、また長期にわたる外出自粛、学校の休業、営業活動の停止などにより我々の社会経済活動は疲弊し、限界に近付きつつある。

国民の生命を守る医療の面では、これまで現状の限りある医療資源をフル稼働して感染症対策にあたってきたが、地域によっては医療崩壊が現実的な問題として危惧されている。新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言は解除に至ったが、未知のウイルスの猛威は依然として予断を許さない状況にある。

国民生活への支援の面では、国民への特別定額給付金や事業者への持続化給付金の支給、緊急貸付制度の拡充など、国や自治体により支援策が実行され、本市議会においては令和2年5月臨時会で設置された新型コロナウイルス感染症対策特別委員会においても緊急に対応すべき施策の提言を行ったところである。

こうした状況の中、我々の社会生活に欠かすことのできない仕事に従事しているエッセンシャルワーカーに対して、偏見や酷い誹謗中傷の事例など胸を痛める残念な事態が相次いでいる。

感染リスクと闘いながら自身の生活を犠牲にして日々献身的に業務にあたっている医療従事者やその家族に対し、勤務先から休むように言われたことや、子どもが保育園等への登園を拒否されたこと、また、医療従事者に対して心無い言葉を浴びせられた例も数多く起きている。更に感染された方に対するSNSなどを利用したインターネット上での匿名による誹謗中傷などが多く見られるようになった。

こうした痛ましくも悲しい事例は人々の未知のウイルスに対する恐怖や感染症に対する間違った認識に起因しており、いつの間にか人間同士が疑心暗鬼に駆られ、社会が分断され混乱が生じ、そしていわれなき偏見や差別が起こってしまっている。

新型コロナウイルスが蔓延する危機的状況下であっても我々が生活でき、経済活動が行えるのは、まさに自身の生活を犠牲にしてまでも最前線で働いている医療従事者をはじめとするエッセンシャルワーカーの存在があるからである。いかなる理由があろうとも、医療従事者等のエッセンシャルワーカーが差別的な扱いを受けるといったことは断じてあってはならない。

我々は、輝かしい歴史をもつ県都甲府の市民として、未知のウイルスによる分断と混乱を断固として打ち破り、何があっても負けない決意を持って、医療従事者等のエッセンシャルワーカー、そしてその家族に心からの敬意と感謝を表明し、いわれなき偏見や差別が起こらない社会を作り上げていくことを宣言する。

- 1 未知のウイルスによる感染の恐怖と闘いながら最前線で献身的に業務にあたっている医療従事者をはじめとするエッセンシャルワーカー、そしてその家族に心からの敬意と感謝を表明する。
- 2 ウイルスをきっかけとするいわれなき偏見や差別は断じてあってはならない。感染症に対する正しい理解を持ち、互いに支え合い、励まし合えるよう行動することを表明する。
- 3 新型コロナウイルスによる感染が終息した後、ふるさと甲府をより一層希望あふれるまちとするため、ともに今を乗り越えることを表明する。

以上、決議する。

令和2年6月8日

甲 府 市 議 会